

【令和4年度】公立大学法人秋田県立大学 職業実践力育成プログラムに係る自己点検・評価

<概要>

課程名：スマート農業指導士育成プログラム

実施期間：令和4年5月26日(水)～令和5年3月14日(火)

受講者数：23名

修了者数：22名

評価項目	プログラム実施組織による自己点検・評価	プログラム評価委員会の評価
1. 教育課程(プログラム実施状況、カリキュラムの妥当性)	<ul style="list-style-type: none"> 当プログラムは学校教育法第105条に規定する特別の課程に対応し、スマート農業において必要とされる新たな知識・技術・技能を修得した支援・指導人材である「スマート農業指導士」を養成するために必要な学修領域・カリキュラムが配置されており、体系的に知識を修得することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当プログラムは、スマート農業の技術面に終始せず、農業普及の学修領域を持つことが特長的であり、スマート農業指導士を養成するために必要なカリキュラムが体系的に構成されていると判断できる。
2. 企業、実務家等と連携して行う双方向の授業等、実践性の高い授業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 当プログラムは企業、団体等と連携して実践性の高い授業を実施している。履修73時間のうち67時間(92%)は、文科省が定める実践性の高い授業に該当している。 	<ul style="list-style-type: none"> スマート農業に関連する充実した講師陣がラインナップされており、実践性が高く効果的な授業が実施されるよう努めていると判断できる。
3. 教育成果(身に付ける能力を修得したか)	<ul style="list-style-type: none"> 受講生は、オンライン動画学習サービス gacco を活用したオンデマンド講義や Zoom ミーティングでのオンライン講義・演習からスマート農業に関する最新知識を知り、アグリイノベーション教育研究センター(以下、AIC)園場等での演習を通じて再確認し、知識修得に努めた。講義に対するコメント・質問も多く、積極性が伺えた。 受講生は、全ての講義・演習を履修し、最終課題(スマート農業普及活動計画)を作成・提出、プレゼンを行った。農学・工学の4名の教員が審査を行い、身に付ける能力の修得度合いを評価した。 講義・演習の履修状況、最終課題の評価結果をもとに、AIC教育プログラム委員会において22名の修了を認定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人受講生に配慮し、オンデマンド講義やオンライン演習の環境も整えられているので、引き続き充実に努められたい。 スマート農業技術をいかに生産現場で実践させて課題を解決するかが重要であり、修了生の現場での状況について、引き続き注視されたい。
4. 受講者支援(学修支援体制、学修支援状況)	<ul style="list-style-type: none"> 担当教員は、オンデマンド講義の視聴状況を確認し、個別に受講生に対して視聴を促す連絡を行い、最終課題の作成の際には受講者への個別対応も行うなど、きめ細やかな学修支援を行った。 外部講師によるAIC園場等での演習の際には、担当教員が外部講師の講義補助を行い、効果的な学習環境づくりに努めた。 受講後アンケートで出された質問に対して、後日、外部講師または担当教員より回答し受講生全員で回答内容を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当教員によるきめ細やかな受講者支援および学修環境整備ができていていると判断できる。
5. 組織運営(教育組織の適切性・妥当性等)	<ul style="list-style-type: none"> 運営組織は、外部講師対応や受講生対応などの各種の事務処理などを担当する専属職員を配置し、教育組織への負担を軽減させている。 教育組織は、実務経験の豊富な教員を配置し、カリキュラム開発、プログラムの実施、学習の進捗管理が適正に行われた。 共有されるべき情報を関係する教職員間で把握し、プログラム運営および教育組織の改善、カリキュラム再編の是非、スマート農業指導士の知識・情報のアップデートの支援体制などについては、継続した議論を行い、R5年度以降の円滑な運営を見据えた分担体制を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当教員と事務職員が連携した運営体制が適切に機能していると判断できる。プログラム評価委員会もオール秋田で構成されており、現場で出た課題を改善しようとする体制が整備されている。
6. 施設設備(施設及び設備の整備状況)	<ul style="list-style-type: none"> 演習用ノートPCを受講生全員に貸出しできるような環境を整えるとともに、Wi-Fi環境を整備し、受講生の利便性の向上を図った。また、AIC園場での演習の際は、熱中症対策としてテント設営を適宜実施した。 R5年度は、新たに建設された研究・管理棟での実施が主となる。R4年度の状態を踏まえ、施設設備の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者への負担が少なく、担当教員の意見を素早く現場に反映させる体制が整備されており、充実した施設整備ができていていると判断できる。

評価項目	プログラム実施組織による自己点検・評価	プログラム評価委員会の評価
7. 広報活動(受講生の募集・広報活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生募集の際には、大学 HP への情報掲載、秋田県庁および県内市町村や JA など、関係機関・団体に対する募集要項の郵送等、幅広い周知を行った。 ・地域の農業者や農業団体などによる AIC 見学会、プログラム担当教員による講演やフォーラム、本学 SNS での演習動画の公開、新聞・テレビなどメディアによる情報公開を通じ、本プログラムの周知に努めた。 ・以上により、受講定員を超えた応募があり、適切に広報活動が行われていると評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講定員を超える応募があり、一定の広報効果を上げていると評価できる。一方、知名度を上げるために、全国区のメディアを講義や演習に呼ぶなど、メディア露出の機会が増加するように改善を検討されたい。 ・大学が、スマート農業の普及に資する人材育成を実施している例が少ないため、インパクトは大きいと考えられる。
8. 企業等の意見を聴くための仕組みの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業指導士育成プログラム評価委員会に、企業や県庁、JA などから外部委員を配置した。 ・本事業は単なるスマート農業機器のユーザ教育ではなく、スマート農業支援人材を育成し、スマート農業技術のフル活用による我が国農業の維持発展を目指すものである。このようなプログラムは全国的にも初めての取組であり、積極的に企業のアイデアを聞き、継続的にプログラムの改善に活かしていくことが今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム評価委員会における課題の共有・改善検討が活発に行われている。引き続きプログラムの充実に努められたい。
9. 社会人が受講しやすい工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・当プログラムの総時間の約 60%をオンライン（オンデマンド、一部ライブ配信）で実施し、社会人の受講に配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人が受講しやすい環境が整えられていると判断できる。今後も移動コストの節約を意識して実施されたい。
10. 受講生の状況に係る効果検証	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての講義・演習において受講後アンケートを実施し、受講者の興味関心や理解度の把握することで、プログラムの改善に活用している。 ・2年目となる R5 年度は修了生のフォローアップ体制を構築し、修了生のスマート農業指導士としての活動状況を追跡調査し、本プログラムの効果を検証する。また、その内容を翌年のプログラムおよび広報活動にフィードバックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なタイミングのアンケート実施とフィードバックにより、双方向が担保されている。スマート農業指導士の活躍が生産現場の課題解決につながるため、引き続き、効果の検証と修了生のフォローアップに努められたい。